

5月に入っても夜は涼しい日が続いています。まだ暑さが本格化していないので比較的過ごしやすいですね。皆様如何お過ごしでしょうか。

ファイ大統領・ソンコ首相の新政権は順調に滑り出している感じです。新しい閣僚が任命され、各省でも幹部ポストの入れ替えが進んでいて、新政府の体制が固まりつつあります。新政権は前政権を批判して権力の座についたので、ある程度政策の見直しや刷新が行われることになり、スローガンとは別にその実体がどのようなものになるのか依然として不透明なところがありますが、少なくとも汚職については厳しく対処していることが分かります。連日新聞は前政権における不透明な資金の流れについての追求の動きを報じています。本使としても、セネガルが中進国に向けて着実に発展を続けて行くためには、汚職対策やアカウンタビリティーの向上は重要だと考えますので、是非、新政権には頑張ってもらいたいと思います。

新政権樹立後、大統領、首相、外務大臣表敬を申し込んでいますが、残念ながらまだ実現していません。就任直後から大統領は政権の立ちあげや近隣国への訪問等で多忙であることはよく分かるので、とりあえず新しい外交顧問や外務省を通じて日セネガルの関係の現状や方向性について情報のインプットに努めています。

そのような中で本使が懇意にしているジョップ前サンジャラシ市市長が産業通商大臣に任命され、早々と表敬することができました。ジョップ大臣は市長時代に訪日して日本企業に対してセネガルへの投資を呼びかけました。とても親日な方で、大臣曰く、日本の経済発展のモデルをセネガルも踏襲したいと思い、日本の経済産業省に倣って関係省庁を統合して産業通商省を作ったそうです。彼は万博を所掌し、日本とのつきあいが益々深くなると思いますので楽しみです。

4月中旬に、サンルイからセネガル河沿いを進んでマタム、カネル、ギディラといったセネガル東部のモーリタニアやマリとの国境地帯を視察してきました。

この地域はダカールから数百キロ離れた奥地、内陸にあるので、訪問前は発展が遅れた地域だろうと勝手に思い込んでいたのですが、この地域を訪問してみて自分の偏見がよく分かりました。

この地域を流れるセネガル河は緑色に近い川面で水を豊かに湛え、その河沿いに大小の町が続き、道路もきれいに整備され、多くの人々や物が行き交っています。自分はアフリカについて浅学ですが、直感で、古からこのセネガル河が大西洋と内陸部を結ぶ重要な交通交易ルートとしての役割を果たし、この河を中心に独自の文明が栄えていたのだと思いました。おそらくこの地域は植民地時代よりも前から既に豊かな地域だったと思います。現地を視察してみてこの地域に対する本使の認識が全く変わりました。やっぱりその場に行かないと分からないことはありますね。

セネガルに来て2年を超えてようやく国内の主要な地域を全て訪問することができました。一段落です。

先月は、日本から能楽師の大倉正之介さんが来られて、セネガル人音楽家のラティール・シィさんと本使公邸やインターナショナルスクールで素晴らしいパフォーマンスをして頂きました。

今月は、セネガルではサンルイでジャズ・フェスティバルが開催され、ダカールでは現代アートの大規模なイベントとしてビエナーレ展示会が開かれます。

日本との関係でも、5月25日にコルニッシュ通り沿いのPlace du Souvenirにおいて日本のアニメフェスティバル「祭り」が開催されます。大使館やJICA、その他の日本関係の団体や企業も参加する、日本のポップカルチャーを中心とした大規模なお祭りイベントです。是非とも多くの日本人、セネガル人に来て頂いて、楽しんで頂ければと思います。

また、6月1日には、ゴレ島において日本人の有志による「世界子ども平和音楽祭」が開かれます。主催者としては、かつて奴隷貿易の拠点となり人類の負の遺産を象徴するゴレ島から平和のメッセージを世界の子供達に伝えたいそうです。この音楽祭のために、日本から音楽家達が来訪する他、日本の障害児が描いた動物の絵が描かれたグランドピアノが送られてきていて、このピアノは音楽祭においてお披露目されてそのままゴレ島に寄贈されることとなります。

本使としては、このように両国間で文化交流が活発化することは日セネガルの関係を更に深めるものとして心から歓迎します。

これから夏に向けて様々な分野で活動が活発になりますので、大使館もしっかり仕事をしていきたいと思っています。